

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A棟・B棟)

事業所番号	0270201783		
法人名	有限会社 三共システム		
事業所名	グループホーム三共グリーンホーム		
所在地	青森県弘前市大字泉野2丁目8-6		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に立地し、敷地内には庭園や畑等があり、ゆったりとした静かな時間が流れています。家庭的な温かい雰囲気の中で、その人らしさを大切にし、生き生きとした生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者及び職員は、ホームが掲げる基本理念の下、地域との関わりを大切に利用者本位のサービス提供を心掛けている。また、毎月発行されるホーム便りは写真を多く取り入れ、家族にもホーム内の活動がわかりやすく伝わるような内容となっており、ホーム内には行事毎に写したスナップ写真や利用者手作りの作品が数々飾られ、家庭的な雰囲気が伝わってくる。職員も明るく、ホーム内の雰囲気も良いため、利用者の表情もとても良く、一人ひとりが思い思いに過ごしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成23年11月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念をホーム内の数ヶ所に掲示し、日々のケアの中で共有して、実践につなげている。</p>	<p>『人としての尊厳を守りつつ、愛情をもって、明るい日常を支援することを目的とする』という基本理念のもと、地域との関わりを大切にしながら、日々のサービス提供に反映させている。理念は玄関やホール、トイレ等に掲示して、全職員で共有するように取り組んでおり、内部研修等でも再確認し、常に理念を念頭に置いて利用者に関わるように努めている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>町内会に加入しており、回覧板を通して地域の情報を得て清掃等に参加し、地域の人との交流を深めるように努力している。</p>	<p>町内は、若い世代が多く住んでいることから、平日は閑散としているが、町内会を通してホームを理解してもらえるように働きかけている。また、行事等により、地域住民との交流を図るよう努力している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>ホーム見学や家族の面会等、認知症についての質問や相談があった時は、アドバイスをを行っている。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議後、職員へ会議録を回覧し、助言等を活かし、業務改善等の検討をしている。</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、会議では運営状況や課題等について情報を交換し、その内容は職員にも周知され、共有化を図っている。また、改善事項等についても職員会議等で話し合い、改善するような体制を整えている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議等でホームの実情を見ていただき、サービス向上に向けてのアドバイスを頂いている。また、利用者の生活や事業運営での疑問等は行政担当者に相談し、助言を得ている。</p>	<p>運営推進会議に役所担当者は年1回程度、地域包括支援センター職員は毎回参加しており、業務についてのアドバイス等を得ている。また、毎月広報誌を配布している他、自己及び外部評価結果や目標達成計画を提出し、ホームの実態を理解してもらえるように働きかけており、必要に応じていつでも相談できる体制となっている。</p>	

自己 外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>内部研修を行い、身体拘束による弊害についても学んでおり、日々の関わりについてもその都度検討しながら対応している。家族ともリスクについての話し合いをし、身体を保護するためにやむを得ない場合は家族に説明をし、同意を得ている。</p>	<p>身体拘束について、外部研修及び内部での研修会によって全職員が理解し、身体拘束をしないケアの実践を心掛けている。外出傾向がみられる利用者に対しては、常に職員が寄り添い、利用者の意向に沿うよう支援している他、無断外出に備えて、交番や町内会から協力が得られるように働きかけている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修を行い、心理的虐待や「不適切なケア」が自分では気付かないうちに行われていないか、自身のケアを振り返っている。ホーム独自の虐待防止に向けた理念があり、全職員に周知している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>内部研修により学んでいる。今後、成年後見制度を利用予定の利用者もおり、支援していく。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書を基に説明し、不安や疑問点を尋ねながら、納得した上で入居していただいている。改定の際にも理解していただいた上で同意を得ている。必要に応じて退去先への情報提供も行っている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付窓口を設け、意見箱を設置している。面会時に家族が希望、要望を話しやすい雰囲気作りに努めている。利用者の希望、要望は日々のケアの中の言動から察するように取り組んでいる。</p>	<p>重要事項説明書へ苦情受付窓口があることを記載している。また、そのことをホーム内にも掲示している他、意見箱も設置している。また、家族の面会時には話しやすいような雰囲気作りに努めており、利用者については日常生活の会話や入浴介助時に職員と2人きりになった際等を通じ、意見や要望の把握に努めている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の棟会議、年に数回の全体会議を開き、意見交換して運営に反映している。	管理者は棟会議や全体会議において職員の意見の把握に努め、出された意見を運営に反映している。また、勤務体制についても職員から意見を聞き、考慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の勤務状況を把握しており、各自が向上心を持って働けるよう、講習受講希望者には勤務体制等の配慮をしている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数等をもとに段階に応じて外部研修に参加させ、研修後は、報告会を行っている。内部研修を月1回行い、職員の育成に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	青森県認知症グループホーム協会に加入しており、総会、研修会により交流の機会を得ている。他事業所主催の介護実技教室に参加し、他事業所と職員同士の交流を持っている。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状況の把握に努め、本人の思いや希望に耳を傾け、本人の不安を受容し、信頼関係の構築に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安に思っている事を聞き取り、相談には速やかに対応し、気兼ねなく、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話や本人の状態を見極め、その時々々の状態により、他サービス利用に関しても選択肢として提示している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	菜園での作物栽培や食事作り等で意見やアドバイスをいただき、完成時には一緒に喜び、達成感を分かち合うことにより、支え合う関係を構築している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報(月1回)により、ホームでの生活をお知らせする他、個々のお手紙や面会時に近況報告をする等、情報の共有に努めている。また、行事にも参加していただく事で交流を深め、より良い関係の構築に努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族が外泊、外出を希望された時はスムーズに出来るよう配慮している。また、以前から通っている医療機関に受診する等、関係が途切れないよう支援している。	入居前の状況を本人や家族から十分聞き取ると共に、普段の日常生活の中からも把握に努めている。利用者がこれまで関わってきた知人等と連絡をとれるように支援したり、本人が希望する菩提寺への参拝等、馴染みの場所へ出掛けられるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶の時間は利用者同士が声を掛け合い、共に時間を過ごす事により、交流が来ている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて、できる範囲で、本人・家族からの相談対応や支援に努めている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、利用者の個々の思いや希望を聞き出すように努めている。必要に応じて、家族からも情報収集をしている。	入居前に本人や家族、これまで関わってきた人からの情報収集を十分に行い、思いや意向等の把握に努めている。また、日常生活の中からも把握している他、常に家族からの情報収集に努め、その人らしい支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りやセンター方式の書式に家族の記入をお願いしたり、本人との日常会話の中から生活歴、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、行動や表情からの気付きを大切に、現状の把握ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を基に、職員間でどのようなケアが必要かを話し合い、介護計画を作成している。	利用者との日常的な関わりや会話等を通じ、本人の思いや希望を引き出すよう心掛けており、全職員で話し合いの上、介護計画を作成している。また、介護計画には家族の思い等も反映されるように取り組み、個別具体的な介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに日々の暮らし、本人の言葉等を具体的に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週木曜日にはボランティアによる手踊り教室を開催し、利用者、職員共に楽しい時間を過ごしている。避難訓練には消防署、地域住民の参加・協力を得ている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況を把握し、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。	入居前から受診している医療機関を開き取りし、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、受診状況については毎月報告している他、緊急時にはその都度連絡し、情報の共有化が図られている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の訪問時には、日々の状態や受診報告を行い、気になる点を相談してアドバイスをいただいている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、家族 医療機関との連絡を密にとり、情報交換をしている。職員も入院先を見舞うようにし、関係の継続を図っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期へは対応しない方針を明確にしている。日常的な健康管理や急変時の対応について、利用者や家族と話し合い、医療機関との連携を図っている。	ホームとして『看取りは行わない方針』を明確にしており、家族等に説明をし、同意を得ている。しかしながら、利用者の急変時や重度化に備え、医療機関や家族とも話し合いを持ち、意思疎通を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルがあり、対応体制を整えている。職員は普通救命講習会に参加している。		/	
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、夜間を想定した避難訓練を行っている。地域住民の参加協力もあり、夜間の災害時には近隣に在住の町会長にも連絡が入り、協力が得られる体制ができています。		年2回夜間も想定した避難訓練を行っている。また、災害時には町内会長からも協力が得られる体制になっており、安全に避難できるよう避難路を確保している。また、定期的に設備点検も行っている。また、災害や停電を想定し、薪ストーブの購入や食料の確保、寒さをしのげる物品等も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36 (14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者にあった声掛け対応を行い、常に自尊心を傷つける事が無いように心掛けている。		常に利用者のペースに合わせた対応を心掛け、利用者本位のケアサービスを行っている。また、声掛けや接遇についても自尊心に配慮していると共に、プライバシーにも配慮した対応を行っている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に合わせ、自己決定できるよう支援している。言葉だけでなく、行動や表情からも汲み取るよう努めている。		/	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先する事なく、個々のペースを大切にするよう努めている。		/	
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に、利用者が好みの服を選んでおしゃれができるよう支援している。好みの洋服の購入のための外出も支援している。また、地域の理容院へ送迎し、染髪する利用者もいる。		/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌い、食べられる量を把握し、代替品や盛り付けの工夫をしている。一人ひとりのできる範囲で盛り付けや片づけ等のお手伝いをさせていただいている。	利用者の希望を取り入れ、栄養士が献立を作成しており、昼食時は職員も一緒に席で食事を楽しんでいる。また、できる範囲内で茶碗拭きや山菜等の下準備を職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成し、カロリーや食事バランスに配慮している。一人ひとりに合った食べやすい形状の物で対応する等、支援している。また、食事量や水分量を記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔内の状態に応じて口腔ケアを行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄記録を活用し、適切に個別のトイレ誘導を行い、自立に向けた支援をしている。	個別の排泄パターンを記録して把握しており、事前誘導を行い、失禁予防に努めている。また、失禁等がみられた場合は、他の利用者に気づかれないように配慮した対応を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便確認と必要に応じた排便コントロールを行っている。個々に食後のトイレ誘導や水分摂取を強化し、乳酸菌飲料により便秘予防に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴であるが、場合によりシャワー浴等の対応をしている。	入浴は週3回となっているが、利用者の意向により、時間帯や曜日を変更する等、柔軟な対応を行っている。また、利用者の疾病や習慣等にも配慮し、適切な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を考慮し、休息していただいている。日中の生活リズムを整え、入眠できる環境を整える事で、安眠できるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報は個人ファイルで常に確認できるようにしている。薬の処方、用量の変更は受診報告書により、職員間で周知している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割を把握し、個人に合った気分転換の支援を心掛けている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回外出行事の予定があるが、日常の中でも個別に買い物、ドライブ、ホーム周辺の散歩等の支援を行っている。	毎年恒例の散策場所の他、月1回の外出については、利用者の要望や意向を引き出し、できるだけ希望に添えるように取り組んでいる。また、家族にも声掛けして、一緒に楽しめるような働きかけも行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行し、好きな物を購入できるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてホームの電話を利用して、家族等へ連絡を取る支援をしている。手紙を出したいとの希望にも応じている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、温度、湿度、匂い、音量、光の強さを調整し、明るく清潔な室内作りを心掛けている。季節感を取り入れたディスプレイや花を用意している。窓からは庭や畑も見え、季節を感じる事ができる。	ホーム内には、季節感のある職員手作りの作品や、利用者個々に作成した趣味活動の作品、観葉植物があちこちにあり、家庭的な雰囲気となっている。また、利用者同士の会話や職員の声、テレビの音等も騒がしくなく、遮光や湿度、温度についても適切に管理している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に数ヶ所ベンチを置き、気の合う利用者同士が寄り添えるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具、仏壇、家族の写真等を配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	仏壇や入居前からの愛用品を持ち込み、個性ある居室作りを行っている。また、ホームで作った作品を飾る等、職員は利用者と一緒に、一人ひとりに応じた居室作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事、出来ない事を把握し、状態に応じた環境整備に努めている。			